



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<https://sanchurch.jp/wp/>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
第65号 2022年1月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行: 三軒茶屋教会 広報部

「教会は主キリストの体にして、恵みにより召された者の集ひなり。」教団信仰告白において、私たちはそう告白する集いに属している。その「集い」の継承を危惧する声が多く、教会で聞かれる。「このままだと今まで通りにはいかなくなる」との不安が背後にある。また、「この奉仕を若い人に引き継いでほしい」との声も聞かれる。では、今まで通りのことを、若い人に引き継いでもらわなければ、何が困るのだろうか。そもそも、「若い人」とはどういう人々なのだろう。

9月19日の主日礼拝での敬老祝福において75名を共に覚えた。これは敬老という文化を教会も受け継ぐよりも、恵みによって召し出された者たちの生を神の御心の現れとして受け止めるためである。さらに、それぞれの「主の日」が確実に近づいているのを集いの一同が受け止め合うためでもある。高齢者が教会に多くいる、それはその教会が道を誤らなかつた証しでもある。二十年経つても、三十年経つても、若い人たちがいない教会とは、どこか怪しい群れと言わざるを得ない。何十年経つても若い人たちがいない教会とは、若い人たちが特有の熱

集いの継承

—時代の移り変わりと共に—

牧師 **伊藤英志**

意や意欲を利用して集いだと次第に悟って、遠ざかっていく者たちも多い集いのだろう。

しかし、高齢となった教会員がいる、しかも大勢いる、それは教会が継承すべきものを正しく継承してきた証しともなっているのだ。

とはいえ、多くの若い世代が教会に集っていた、いわゆる戦後キリスト教ブームという特殊な時代環境の中で形成された諸教会は、今、集いの継承としては危機的状況にある。「若い人に」との声も当然であろう。

では、「若者が大勢いる集い」は、あの頃と同じように再現できるのだろうか。その期待は、残念ながら「人間の思い」に属するものだろう。かつての若い世代と、今の若い世代では、分かち合える好みや価値観は全く別である。ましてや、家族や親類でもない方々の思いや願いを継承したいという強い意欲をもって、主日礼拝に集おうとしている若い人々は、誰一人としていないと覚悟しなければならぬ。

集いの継承とは、変わらざるさまざまな奉仕や交わりの組織的な継承というよりも、恵みによって召し出された者たちが主日礼拝を守り続けるようにする歩みである。

今般のコロナ禍によって、主日礼拝を守るために必須なのは、祈りと献身であると改めて思い知った。行事の担当や奉仕は、礼拝に集う者たちによって支えられていく。

何かを若い人に引き継いでほしいのであれば、まず親族や知人の若い人を教会に導こうではないか。それ



なくして「若い人」に何かをそのまま譲ろうとすれば、その若い人たちは集いから逃げてゆくだろう。

どの教会も時代の移り変わりとは無縁ではない。今まで通りにはいかなくなる状況は確実にやって来る。

今、教会に結ばれている私たちは、「恵みによって召された」その恵みを今一度思い起こし、実行可能な事柄に集中する歩みを続けたい。困難な状況でこそ、時代の変化の中でも変わらざる恵みを見出そうと励む。その時、誰も経験したことのない道が開かれていくのだ。